

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES

第 18 号

日本国際文化学会

<http://www.jsics.org>

ニューズレター

2011年2月28日 発行

日本国際文化学会事務局

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

法政大学国際文化学部

熊田泰章研究室

第 10 回記念全国大会（文教大学国際学部で開催）に向けて

学会創立 10 周年記念特別シンポジウムなど 大会プログラム概要と自由論題募集のお知らせ

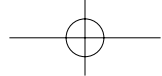
2011年7月2日（土）、3日（日）にかけて、日本国際文化学会創立10周年を記念する第10回全国大会が、文教大学国際学部（湘南キャンパス・茅ヶ崎市）において開催されます。また、関連して、7月1日（金）の晩には国際文化会館（東京都港区）で学会創立10周年記念特別シンポジウムの一つを予定しています。これを含め三つの記念特別シンポジウムとフォーラムを、学会としてとりわけ力を入れて準備しております。ただし、財政的問題もあり、企画が予定通り実現しない場合もあることを、学会員のみなさまにはご承知おきください。その場合には速やかにその旨をみなさまにお知らせする所存です。

自由論題発表者募集

- 1) 発表内容：個人研究発表とする（内容により、複数の発表者による発表も可とするが、その場合も1名分の時間とする）。
- 2) 発表時間：時間は質疑応答も含めて30分とする。
- 3) 応募資格：日本国際文化学会の会員に限る。ただし、現在会員でない方でも、申し込みと同時に会員登録を行うことにより資格を得ることとする（入会の申し込みは学会事務局へ）。
- 4) 応募要領：氏名・現職（大学教員・有職者の場合は所属と肩書き、大学院生・学生の場合は在籍課程などを明記）・連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）・発表題目・キーワード（3～5語）を冒頭に記し、発表要旨（40字×25行以下）を付けてワード文書とし、電子メールに添付して下記宛先の電子メールアドレス宛に送信すること（電子メールでの提出が不可能な場合は、作成した文書をプリントアウトしたものを下記宛先に郵送すること）。
- 5) 応募締切：2011年3月31日必着
- 6) 宛 先：〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100
文教大学国際学部 奥田孝晴
日本国際文化学会第10回全国大会実行委員長
電話 0467-53-2111（代）
電子メール okuda@shonan.bunkyo.ac.jp

なお、自由論題発表の日程はこれまでと同様、以下の時間枠を用いる予定。

7月2日（土）9：00～11：00 / 7月3日（日）9：00～11：00



日本国際文化学会創立 10 周年記念特別シンポジウム 「戦略としての文化と国際文化学」 および 第 10 回全国大会プログラム概要

したがって、以下のプログラム概要は確定したものではありません。しかし、このような盛りだくさんの内容をもった大会を、創立 10 周年を記念して開くべく最大限の努力を注いでおります。その内容は学会員の要望に十分応えるものと自負しています。多くの学会員の参加を期待するところです。

なお、以下のプログラム概要は確定したものではありません。しかし、このような盛りだくさんの内容をもった大会を、創立 10 周年を記念して開くべく最大限の努力を注いでおります。その内容は学会員の要望に十分応えるものと自負しています。多くの学会員の参加を期待するところです。

●特別シンポジウム企画 1

2011 年 7 月 1 日 18 時～20 時 30 分

会 場：国際文化会館 〒106-0032 東京都港区六本木 5-11-16 電話：03-3470-4611

●第 10 回全国大会および特別シンポ企画 2・3

2011 年 7 月 2 日 9 時～20 時（情報交換会終了）

3 日 9 時～15 時 45 分（全日程終了）

会 場：文教大学湘南校舎（神奈川県茅ヶ崎市） 〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100

TEL 0467-53-2111（代）

■第 10 回全国大会実行委員会事務局：文教大学国際学部 奥田孝晴（実行委員長）研究室

Eメール okuda@shonan.bunkyo.ac.jp

■参加費：一般会員 3,000 円 学生会員 2,000 円（それぞれ特別シンポジウム 1～3 参加費含む）

《日 程》

□7 月 1 日【国際文化会館】

16：00～17：00 常任理事会

18：00～20：30 特別シンポジウム●企画 1「東アジア共同体と国際文化学」

□7 月 2 日【文教大学湘南校舎】

9：00～11：00 自由論題

11：15～13：15 共通論題

○ワークショップー地域に根ざした食文化の創造

○マッカーシズムと太平洋問題調査会（IPR）

○変容する国際秩序と文化の展開

13：30～14：00 総会

14：00～15：00 フォーラム「国際文化学教育のテキスト 現状と課題」

15：15～17：45 特別シンポジウム●企画 2「グローバル化する若者文化と国際文化学」

18：30～20：00 情報交換会（会場：ちがさきモキチフーズガーデン）

□7 月 3 日【文教大学湘南校舎】

9：00～11：00 自由論題

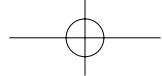
11：15～13：15 共通論題

○草原の国際文化ーグローバリゼーションの源流を求めて

○変革期における世界像と日本像の実相ー幕末・維新期を中心に

○「こどものにわ」の舞台裏

13：45～15：45 特別シンポジウム●企画 3「人の移動と国際文化」



大会関連特別企画の紹介

□日本国際文化学会創立 10 周年記念特別シンポジウム「戦略としての文化と国際文化学」

The Japan Society for Intercultural Studies Tenth Anniversary Special Symposium "Culture as a Strategy and Intercultural Studies"

主 催：日本国際文化学会

共 催：国際文化会館、文教大学 国際学部・情報学部・湘南総合研究所

○全体趣旨説明

21 世紀に入り経済活動のグローバル化の進展は東アジアへと広がってきた。中産階級の勃興により、人びとは生活の質、すなわち文化的価値の追求に惜しみなく投資するようになる。モノとサービスが文化という価値を運ぶ世界の出現である。

一方不幸なことに、大戦後の 60 余年にわたる日本と東アジアとの関係はいつまでも成熟しないままに今日に至っている。今こそ国と国との関係を越えた人と人との関係を直視する国際文化学の歴史的な役割が問われている。そこで、次の 4 つの柱のもとで本事業を企画し実施する。

- (1) 現実に進展している東アジア共同体について多様なアプローチにより解明し、そのことにより共同体の未来に貢献する文化の戦略を展望する。

企画 1 のシンポジウム「東アジア共同体と国際文化学」は共同体が現に存在し進行しているとの認識のもとで国際文化学の視点から討議を深めてゆく。

- (2) 日本発の若者文化は既に世界規模で定着している。マンガやオタクのグローバル化を通して、文化の戦略を構想する手がかりを求める。

企画 2 のシンポジウム「グローバル化する若者文化と国際文化学」は国際的なマンガ世界を中心とした若者文化の今日から明日を戦略としての文化の視点から展望する。

- (3) 人・モノ・カネ・情報がトランスナショナルな移動を加速させるグローバリゼーションが私たちに何をもたらしているのかを検証する課題は、ますます大きなものとなっている。

企画 3 のシンポジウム「人の移動と国際文化」では、その文化を担う主体としての人が移動することによって生まれる文化のダイナミズムに焦点をあてたい。

- (4) 本事業の成果をグローバルに情報発信し国際的に実りある対話に道を開く。日本国際文化学会は本事業実施によって文化の戦略についての国際社会からの活発なフィードバックを求め

ローバルな対話の世界を構築する。実施した成果を国内および国際的に発信するべく日本語版と国際版の二部構成で報告書を公刊する。

●企画 1 「東アジア共同体と国際文化学」

日時：2011 年 7 月 1 日 金曜日 18 時～ 20 時半

場所：国際文化会館

趣旨：今日の東アジア共同体はかつての「大東亜共栄圏」の悪夢とは全く異質なものである。東アジアは既に新しい形で発展を遂げており、共同体概念そのものがそれぞれに自立した実体を有する東アジアの諸国・地域の指導者たちから提唱されている。われわれは共同体から逃避し孤立するのではなく、議論に参加し現実に進展している東アジア共同体について多様なアプローチにより解明し、そのことにより共同体の未来に貢献する文化の戦略を展望したい。

開会挨拶：日本国際文化学会会長

基調講演および討論参加：

ジャン・インスン（ソウル国立大学教授）

基調講演「東アジア共同体と国際文化：過去から未来へ」

パネリスト

マリコ・アサノ・タマノイ（UCLA 教授）

「記憶の地図から共同体を透視する」

李 微（中国社会科学院日本研究所長）

「日中文化対話と東アジア共同体」

陳 光興（台湾交通大学アジア太平洋文化研究センター教授）

「方法としてのアジアと文化研究」

濱下 武志（東京大学名誉教授）

「東アジア世界の地域ネットワーク」

コメンテーター

田川 博己（株式会社ジェイティービー代表取締役社長、文教大学客員教授）

「交流文化事業としての観光業の今日的課題」

モデレーター

平野 健一郎 日本国際文化学会創立会長 / 早稲田大学・東京大学名誉教授



●企画2「グローバル化する若者文化と国際文化学」

日時：2011年7月2日 土曜日 15時～17時半

場所：文教大学湘南校舎

趣旨：日本発の若者文化は既に世界規模で定着している。manga/otaku/animeそしてkospureが世界語になり、新しい変貌を遂げつつある。さらにメディアとしてのnintendoの存在を指摘できる。これらの文化は下位の(サブの)文化であるどころかこれまでメインストリームと考えられてきた文化そのものをも変えてゆく潜在力すら今日では指摘されている。新しい取り組みを交えながら、マンガやオタクのグローバル化を通して文化の戦略を構想する手がかりを求め

基調講演および討論参加：

フレデリック・L・ショット (米国、作家・翻訳家)

基調講演「グローバル化する若者文化、現在そして未来」

パネリスト

森川 嘉一郎 (明治大学准教授)

「国際マンガ図書館の文化学」

化 濱 (東京大学院生)

「現代中国におけるコスプレ文化」

鵜飼 正樹 (京都文教大学准教授)

「大衆芸能の戦略とは」

コメンテーター

高田 哲雄 (文教大学情報学部教授)

「MANGAにおける文化の創造」

岡 真理子 (日本国際文化学会常任理事、青山学院大学教授)

「グローバル化と文化政策」

討論参加

ジャン・インスン (ソウル国立大学教授)

モデレーター

白石 さや (日本国際文化学会常任理事、東京大学教授)

●企画3 「人の移動と国際文化」

日時：2011年7月3日 日曜日 13時～15時半

場所：文教大学湘南校舎

趣旨：近代国民国家体制のもとで、ナショナリティと文化の間には人為的な結びつきが強められたが、本来、両者間には必然的な結びつきがあるわけではない。にもかかわらず、国家が「有益な」文化を自らの領域に取り込もうとする動きは絶えない。だからこそ、

このような国家の思惑を乗り越える文化のダイナミズムを支える人の移動に注目する意味がある。われわれが生きるアジアを現場として人の移動がもたらしている文化のダイナミズムのフロンティアに迫る。

パネリスト

趙 貴花 (東京大学大学院)

「若者の移動とアイデンティティの構築」

高 鮮徽 (文教大学非常勤講師)

「在日済州島出身者の生活過程」

カルロス マリアレイナルス (龍谷大学准教授)

「高齢社会日本における外国人介護労働者」

仲地 清 (名桜大学教授)

「国際移動と琉球・沖縄」

コメンテーター

マリコ・アサノ・タマノイ (UCLA 教授)

「帝国時代の満洲の研究から」

モデレーター

山脇 千賀子 文教大学准教授

□フォーラム「国際文化学教育のテキスト 現状と課題」(企画4)

日時：7月2日 日曜日 14時～15時

場所：文教大学湘南校舎

趣旨：日本国際文化学会の設立前後から、大学における国際文化学教育のためのテキストとして編集された書籍の刊行が多く見られる。このフォーラムでは、それぞれのテキストに関わる担当者が、編集や刊行後の使用の実態に関して報告し、共通する問題点などについての討論をおこなう。今回の対象としては、『新編グローバリゼーションスタディーズ－国際学の視座』(文教大学)、『芸術・メディアのカルチュラルスタディーズ』(龍谷大学)、『佐賀大学文化教育学部研究叢書』二冊などを予定している。

パネリスト

山口県立大学

龍谷大学

文教大学

佐賀大学

ほか

モデレーター

松居 竜五 (日本国際文化学会副会長、龍谷大学准教授)